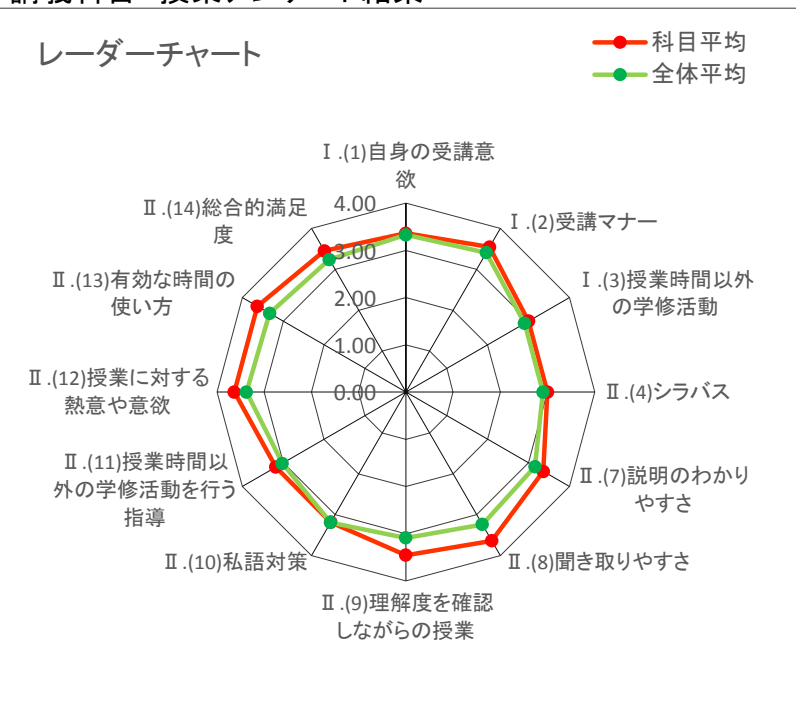
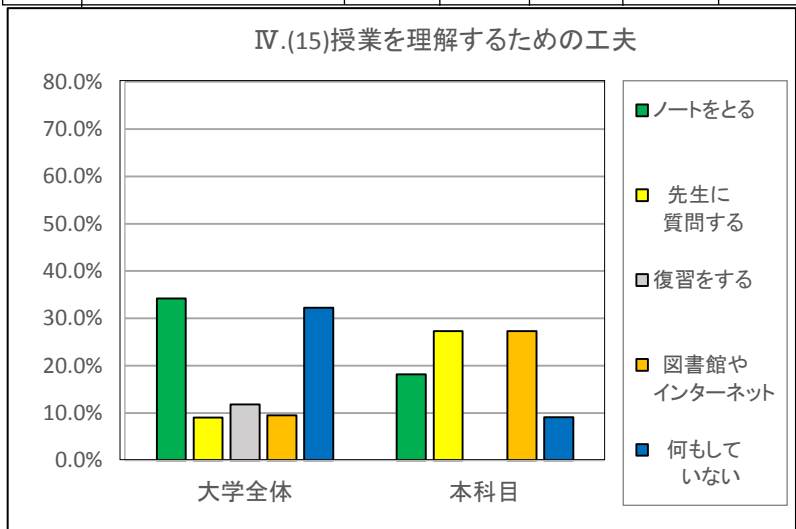


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	18.2%	27.3%	0.0%	27.3%	9.1%



	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.36	3.33
	I.(2)	3.55	3.41
	I.(3)	3.00	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.00	2.90
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.36	3.16
	II.(8)	3.64	3.24
	II.(9)	3.45	3.09
	II.(10)	3.18	3.19
	II.(11)	3.18	3.03
	II.(12)	3.64	3.38
	II.(13)	3.64	3.33
	満足度	II.(14)	3.45

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.30	3.21
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.39	3.17
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.45	3.24
III.(14)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2015年度 後期
時間割番号	11105
科目名	行動の科学
教員名	

①授業計画の達成度について
 本講義は、心理学の基本的な理論や、実験手法、アンケート調査の手法について理解し、それを基にグループで研究計画を立案、実行し、研究レポートにまとめることを目的としていた。実際の講義計画から遅れは発生したものの、全員が実験、調査を行い、その結果を発表し、レポートにまとめることができた。したがって、授業計画はおおむね達成されたと考える。講義の総合的満足度も、全体平均より上回っているため、受講生は自身の学修について良いイメージを持っていたと考えられる。

②授業の進め方について
 講義の進め方について、設問(7)から(9)の講義の理解に関する項目がすべて全体平均を上回っていた。相対的に、本講義は受講生にとって理解しやすいものであったと考えられる。また、受講態度や私語対策もすべて全体平均を上回っていたため、講義を聞き取りやすい環境が維持されていたと考えられる。講義以外にも積極的に学習を行ったことが、設問(11)から(13)が全体平均より高かったことから示されている。総じて、授業の進め方は妥当であったと考えられる。ただし、設問(10)の私語対策は全体平均を0.01ポイント下回っていたため、グループワークと課題遂行のメリハリをさらにつける必要があると考えられる。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について
 今回は、全体平均よりすべての評価が上回っているため、相対的に受講生の満足度、理解度が高い講義を行うことができたと考えられる。今回の講義計画の基本的な流れは、自身の前期に行った発達心理学A・Bと基本的に同様である。しかし、本講義の平均値は全体平均より高く、発達心理学A・Bの平均値は全体より低かった。この原因は無数に考えられるが、1つは、本講義の受講生が20名程度と少数であり、発達心理学A・Bの受講生がその3倍以上であったことがあげられる。きめ細やかな学生に対する指導のためにも、講義の受講生が多い場合に複数のクラスに分割するなど、対策が必要であろうと推察する。